



# 患者の高齢化に対する備え

福井大学医学部附属病院

地域医療連携部 総括医療ソーシャルワーカー

三嶋 一輝

kazkim@u-fukui.ac.jp



南海トラフ地震を想定したDMAT実動訓練  
(政府訓練)

2018年8月4日 (土) 高知大学医学部附属病院



病院などで、問題を抱える患者の治療や退院、社会復帰を支援する医療ソーシャルワーカー(MSW)の役割が高まっている。福井大医学部附属病院(永平寺町)では、MSWが病棟を回り、支援が必要な人の早期把握に取り組んでいる。同病院のMSW三嶋一輝さん(35)は「経済的にも社会的にも難しい時代だからこそ、1人1人の患者さんの思いに寄り添いたい」と話す。(西脇和宏)

## 福井大病院・医療ソーシャルワーカー

1人暮らしのお年寄りや、家族がいても介護の負担が大きい人、日常生活の動作が難しい人、病気で仕事を失い貧困に直面している人…。さまざまな理由で退院が難しい入院患者に対し、福祉制度を活用して退院後の受け皿を整えるのは、MSWの大きな業務の一つだ。

「相談を待つのではなく、積極的に病棟に出向き、不安や悩みを聞いています」と三嶋さん。同病院が2012年から始めた「病棟ラウンド」は、地域医療連携部のMSWと看護師がペアになり、全ての病棟をほぼ毎日回る。病棟の医師や看護師と入院患者の情報交換を行い、入院早期からの支援につなげている。

国は医療機関の役割分担を進めており、結果として一つの医療機関の在院日数は短くなっている。同病院の2013年度の平均は14・5日だ。良くなるまで入院できると考えていたのに、転院や退院と言われて「見捨てられた」「追いつけなかった」と混乱する患者や家族もいる。住み慣れた地

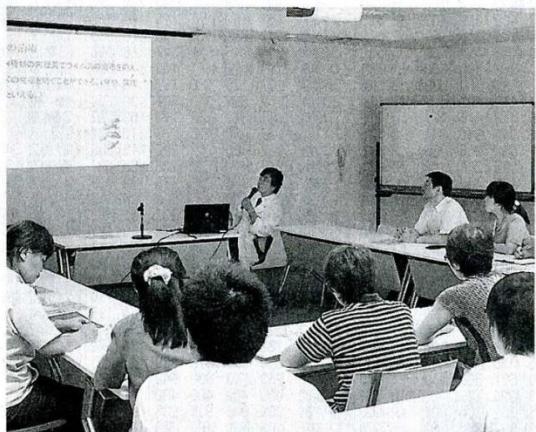
# 病棟出向き退院支援

## 不安軽減、制度手続きも

域へスムーズに退院、転院ができるよう、かかりつけ医や訪問看護、介護のスタッフらと調整し、必要があれば支援計画を立てて環境を整える。MSWを置く医療機関は県

内にも増えている。国家資格ではないが、社会福祉士や精神保健福祉士らが担う場合が多い。国内では戦後から普及している職種だが、三嶋さんは「一般的知名度がまだまだ低いと感じている。」「患者さんが利用できる支援制度を知らない場合は多い。MSWは制度を紹介し、一緒に手続きする。ぜひ活用してほしい」と呼び掛けた。

## HIV患者 在宅で自立



ヘルパーや訪問看護師らが参加したHIV勉強会(三嶋さん提供)

### ケア会議重ね受け皿を整備

MSWが支援する患者の中

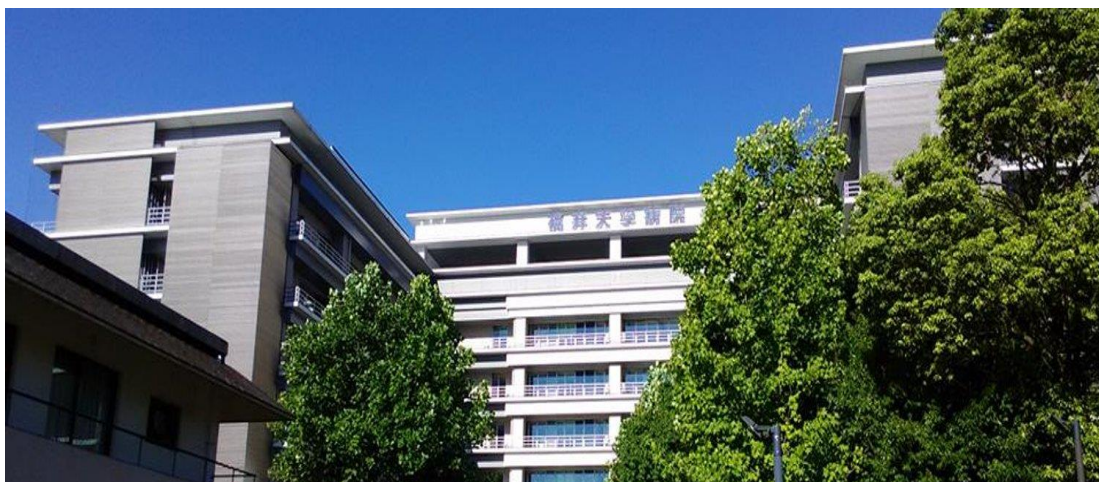
には、いまだ社会の受け皿がIV)感染者が、双極性障害

整っていないケースも少なくない。

2012年春、県内に住む40代男性のエイズウイルスHIV)感染者が、双極性障害(そうつ病)と診断されて福井大医学部附属病院に入院した。2年ほど前から自殺願望が現れ、入院前は被害妄想が激しくなり、奇異な言動が見られるようになっていた。約4カ月後の退院時、1人暮らしだった男性には週3回の介護ヘルパー、週2回の精神科の訪問看護などが必要になった。HIV感染者としては、在宅サービスを使って大病院から退院する初めてのケースだった。三嶋さんは病気の治療と並行して、入院中に仕事や住む家を持った男性の自己破産手続き、障害年金、生活保護の申請などに行き添たり、アパート探しも付き添

# 施設概要

- 設置母体：国立大学法人
- 診療科：33科
- 病床数：600床



**福井県エイズ治療中核拠点病院、**

特定機能病院、福井県災害拠点病院、地域がん診療拠点病院

**HIV感染症担当診療科：感染症膠原病内科**

**(全科対応可、入院は当該病棟に入院)**

診療日：月・木 8時30分～11時（処方のみであれば血液腫瘍内科でも対応）



# 当院のHIV診療体制

診察室 2 室、面談室1室

## HIVチーム

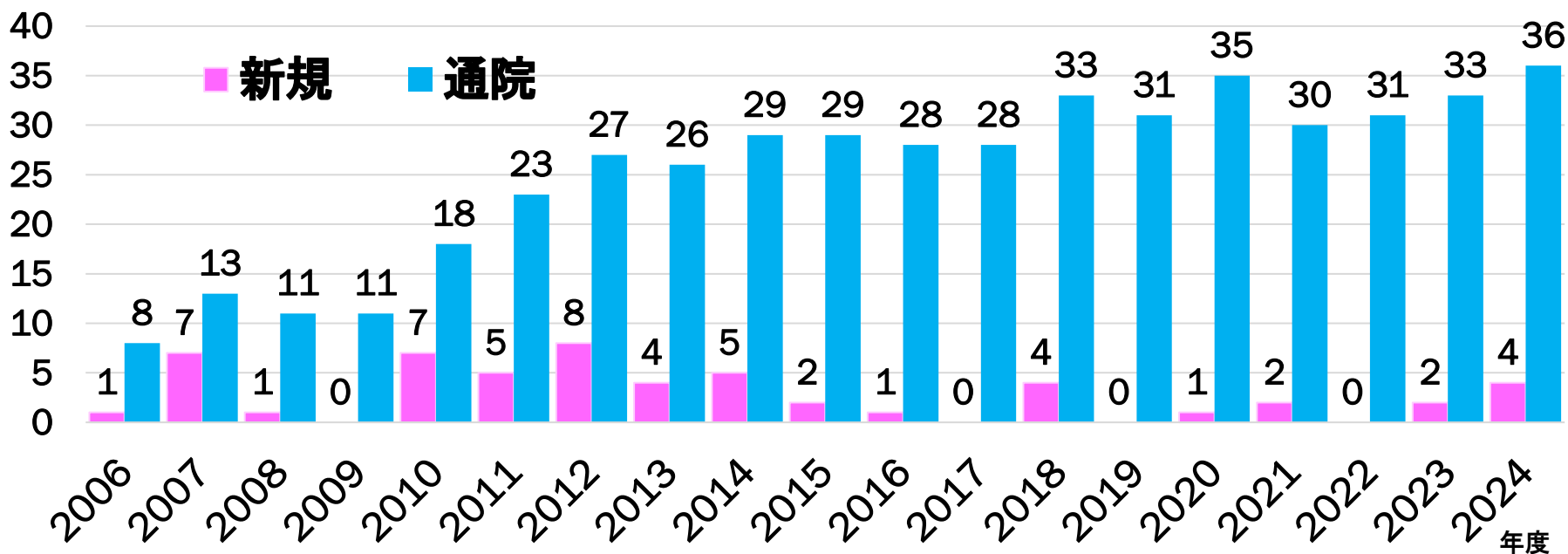
- 医師 3名
- 看護師 3名（外来2名・病棟1名、専任）
- 薬剤師 2名
- MSW 3名 ※長期療養事業1名含む
- 心理士カウンセラー 1名
- 事務職員 1名 ※長期療養事業1名含む
- 月1回 第3金曜 HIVミーティング
- ウイルス疾患指導料2 算定



# 当院のHIV患者概況 新規患者と通院患者の推移

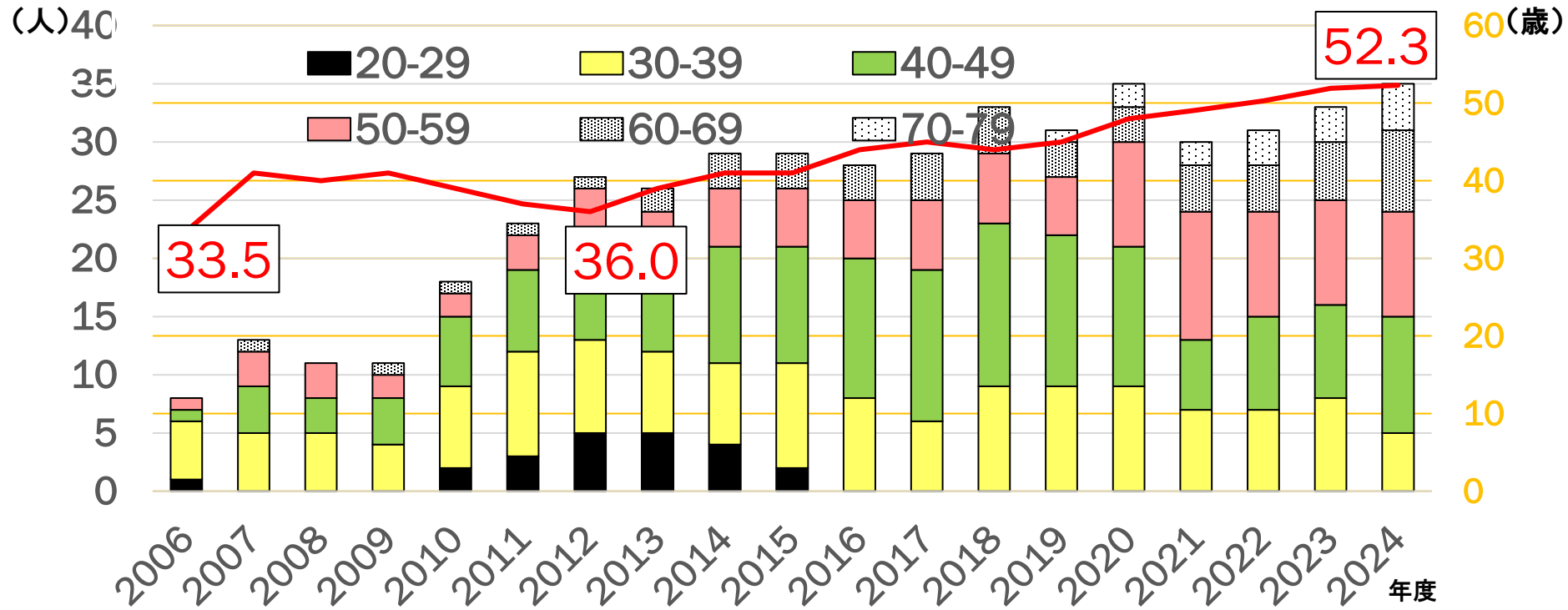
2025年3月末現在：登録患者数 77名、定期通院患者36名

(人)



# 受診患者年齢分布と平均年齢

受診患者は、**確実に高齡化**している



## ➤ 高齢化に伴う問題

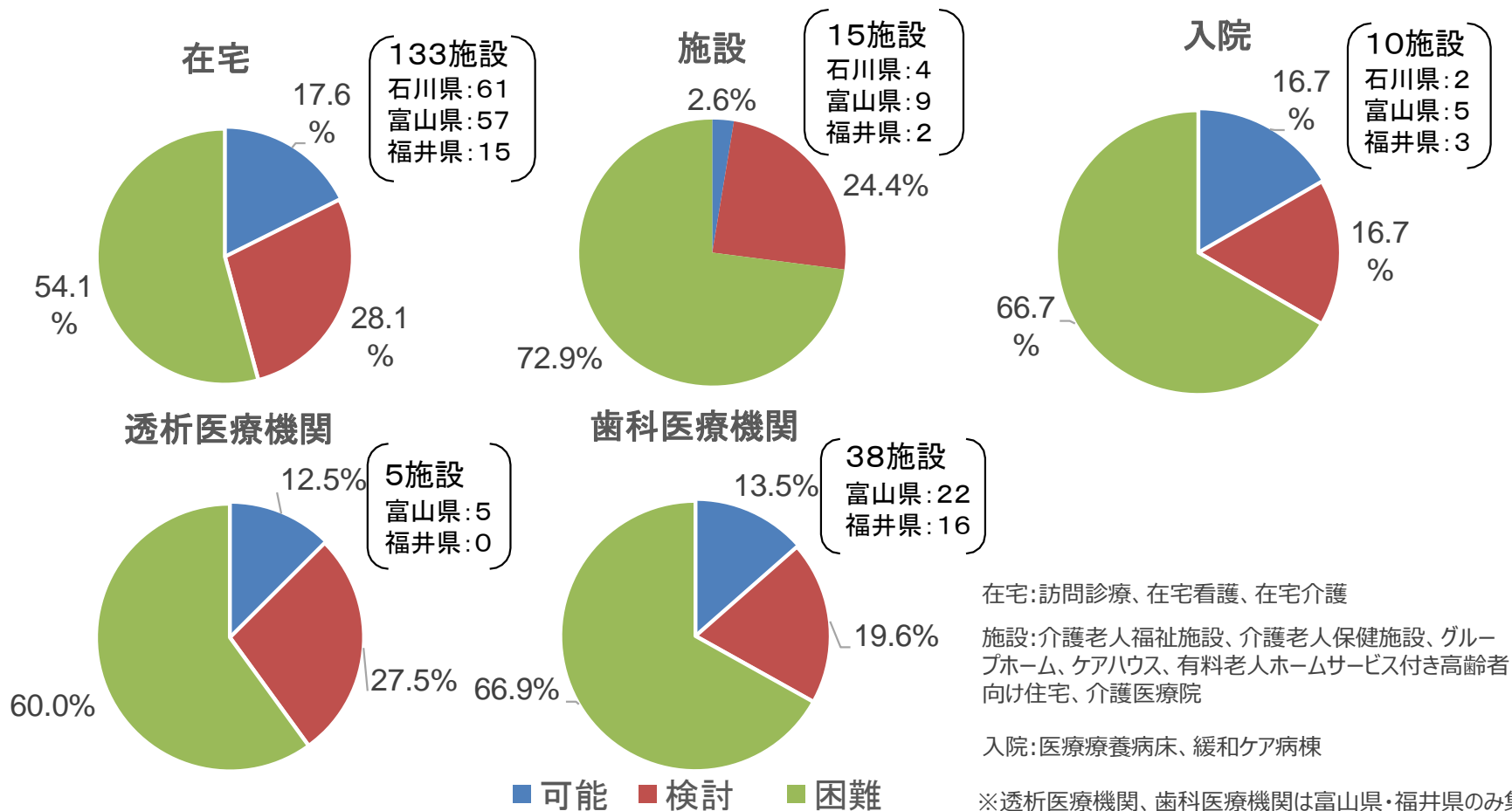
- 2000年初期の新規感染者で割合の高い年代が  
現在は高齢のHIV陽性者として治療を継続している
- 今後、老人ホームおよび介護施設を利用するHIV陽性者の増加が予測可能  
(富永・岡元・中村・坂崎・木下・川山・星野, 2020)
- 一方で、HIV陽性者の受け入れに消極的な施設も多く存在  
(永井・池田・織田・城崎・菅原・山田・今井・遠藤・大野・川部・小西・山田, 2008)
- HIV患者の高齢化に伴う問題の1つとして、**施設の受け入れ**



# 福祉施設等の受け入れ状況調査の結果概要

調査対象:北陸3県の訪問診療、訪問看護・訪問介護を行っている施設、透析医療機関（透析部門）、  
 歯科医療機関（歯科部門）、介護老人福祉施設、介護老人福祉施設、グループホーム、ケアハ  
 ウス、医療療養を有する施設、介護医療院、緩和ケア病棟、有料老人ホーム、サービス付き高齢  
 者向け住宅等 4,216施設

回収率 :39.3% (有効回答 1,655件)



在宅:訪問診療、在宅看護、在宅介護  
 施設:介護老人福祉施設、介護老人保健施設、グループホーム、ケアハウス、有料老人ホームサービス付き高齢者向け住宅、介護医療院  
 入院:医療療養病床、緩和ケア病棟

※透析医療機関、歯科医療機関は富山県・福井県のみ集計対象とする

# 北陸ブロックにおけるエイズ患者長期療養体制構築事業

## 石川県

### (1) 北陸ブロック拠点病院及び中核拠点病院の支援体制の強化

- ① 多職種による支援チームの設置
- ② 患者等の相談・支援
- ③ 受入れ施設との調整・支援

### (2) 福祉施設等の理解の促進

- ① 訪問看護事業所等の研修
  - ② 訪問介護事業所や高齢者入所施設等の研修
- ※関係団体への事業委託も検討

### (3) 地域療養支援体制の整備

- ① 歯科診療ネットワークの拡充
  - ② 透析診療ネットワークの整備
- ※関係団体への事業委託も検討

### (4) 患者支援団体の相談体制の強化

- ① 生活上の問題に係る相談や拠点病院等との連携
  - ② ピアカウンセリングや相談会の開催
- ※患者支援団体への事業委託

## ブロック拠点・中核拠点病院

### 北陸ブロック拠点病院（石川県立中央病院）

富山県中核拠点病院  
(富山県立中央病院)

福井県中核拠点病院  
(福井大学附属病院)

### 感染者及び患者・受け入れ施設等

富山県 患者等

石川県 患者等

福井県 患者等

患者等の状況把握・サービス利用調整等の支援

受け入れ施設との調整・相談等の支援

### 患者支援団体

生活上の問題等の相談

相談会の開催

### 訪問看護・介護事業所、高齢者入居施設等

研修会の開催

歯科医療機関・透析医療機関

受け入れ可能な医療機関の拡充

事業委託等

連携

事業委託

事業委託等

支援

支援

支援

支援

支援

支援

支援

支援

連携

富山県

福井県

連携

# 福井県におけるHIV長期療養体制整備の取り組み

## (1) 北陸ブロック拠点病院及び中核拠点病院の支援体制の強化

- ① 多職種による支援チームの設置 ※チームは設置済 (2004)

R5.4.1 HIV専従MSW (外来+血液・感染病棟)

R5.7.11 長期療養担当事務職員

- ② 患者等の相談・支援

R5.9~R7.4 薬害被害者支援

R6.6.1~ 長期療養に関するホームページと  
WEB相談窓口開設と運用



<https://hiv-fukui.jp/>

## (2) 福祉施設等の理解の促進

- ① 県内の訪問介護事業所や高齢者入居施設等を対象とした研修の実施

R5.9.14 グループホーム (参加者: 約10名)

R5.9.20 介助派遣事業所 (参加者: 約15名)

R5.10.24 介護老人福祉施設 (参加者: 20名)

R6.11.5 介護老人福祉施設 (参加者: 20名)

## (3) 地域療養支援体制の整備

### ① 歯科診療ネットワークの拡充

福井県歯科医師会

参加者：約130名



歯科クリニック

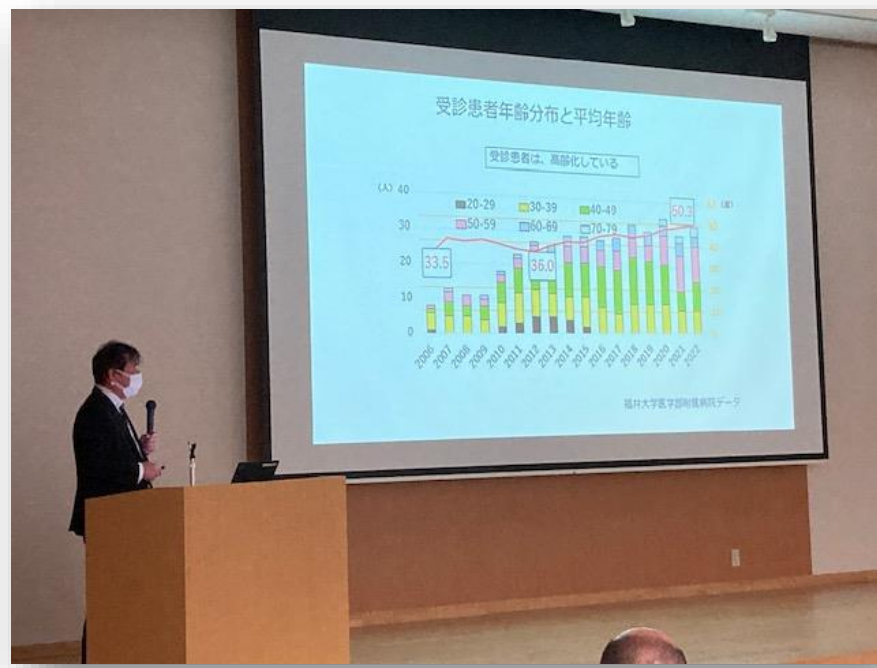


# (3) 地域療養支援体制の整備

## ② 県内の透析診療ネットワークの拡充

### 福井県透析ネットワーク（総会）

参加者：約30名



# (4) 患者支援における相談体制の強化

## ① ピアカウンセリング・相談会の開催 (月1回)



(福井大学医学部附属病院)

人生を考えるきっかけに!  
 ~体験してみよう もしバナゲーム・人生会議~



**もしバナゲーム**

- カードゲーム
- 「もしもの時

考え

伝える

残りの人生で大切にしたいことを

再生 (k)

▶ ⏪ 🔊 0:59 / 3:45

『もしバナゲーム』 | 著作権 | iAG | 設定 | 字幕 | 予約 | 保留

人生を考えるきっかけに！～体験してみよう もしバナゲーム・人生会議～

 秋田市公式YouTubeチャンネル  
 チャンネル登録者数 4.85万人

チャンネル登録

👍 高評価

💬

🔗 共有

↓ オフライン

✂️ クリップ

## ②福井県HIV中核拠点病院・協力病院 ソーシャルワーカー連絡会議

### ●第1回（2023.1.25）

・「近畿ブロックにおけるエイズ患者長期療養体制構築事業の取り組み」

講師：大阪医療センター 岡本学先生

・意見交換会 ・参加：15名（MSW、HHC、ブロック、福井県） ・WEB: 1時間

### ●第2回（2024.1.18）

・「with hiv 21年目 ハードモードな人生が楽しめる理由」（講師：月乃 ゆり先生）

### ●第3回（2025.1.16）

・「福岡県におけるエイズ患者長期療養体制構築事業の取り組み」

講師：九州医療センター 首藤美奈子先生

・意見交換会 ・参加：15名（MSW、HHC、ブロック、福井県） ・WEB: 1時間

## ③北陸3県HIV長期療養SWネットワーク会議

※月1回（金沢市）



# ②福井県HIV中核拠点病院・協力病院 ソーシャルワーカー連絡会議

## ●第3回 (2025.1.16)

・「福岡県におけるHIV陽性者の地域支援ネットワーク体制構築の取り組み」

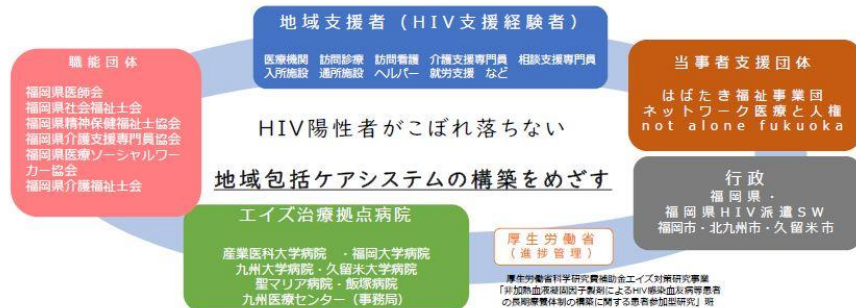
講師：九州医療センター MSW 首藤美奈子先生

・意見交換会

・参加：14名 (MSW、HHC、ブロック、福井県)      ・WEB: 1 時間

### 福岡県HIV陽性者地域支援ネットワーク構想とは

<ネットワークの体制>



### ・感想 (5件)

- ・素晴らしい取り組みで大変参考になりました。地道な活動を粘り強くやっていくことを自分自身も取り組んでいきたいです。
- ・診療、施設利用・入所の受け入れ拒否をよくあること、あたり前のこととして慣れてしまうことなく、諦めずに働きかけ続けることの大切さをあらためて確認することができ、大きな勇気を頂きました。ありがとうございました。
- ・日々こなしている研修やあいさつ回りなどに疑問を感じることもありましたが、続けることが大切だと思えました。福岡県の取り組みなど、今後の参考にさせていただきます。
- ・福岡モデルの取り組みに感銘した。「どこでも受け入れてもらう環境を目指すことを願う」という患者さんの思いに向き合っていきたい。
- ・エイズ患者さんを取り巻く環境について改めて知ることができました。行政としてもエイズに対する偏見や誤解が少しでも薄れていくように普及啓発等を行なっていくてはいけないと思いました。貴重なお話ありがとうございました。

首都圏の緩和ケア病棟に転院した要介護状態にある  
一人暮らしのHIV感染血友病患者について

# 望ましい“終活”や支援とは？考えるプロジェクト開始 福井市

06月25日 17時12分



身寄りのない高齢者が増える中、住み慣れた地域で最期を迎えるための「終活」のあり方や支援策を考えるプロジェクトが福井市で始まりました。

福井市は、身寄りのない高齢者をサポートしようと、「終活支援プロジェクト」を立ち上げ、25日、民生委員や医療関係者、それに遺品整理業者など幅広い職種の50人余りが集まり、初めて会合を開きました。

この中で、住み慣れた地域で最期を迎えるための「終活」や、高齢者への支援策について話し合い、特別養護老人ホームの担当者が、身寄りがないうえ、意思表示も難しい高齢の入所者に治療方針への同意をとることが難しかった事例などを紹介していました。

福井市では、ひとり暮らしの高齢者は年々増えていて、現在は1万8000世帯を超え、全体の15%ほどを占めているということです。

また、身寄りのない高齢者が亡くなり、市が火葬を行ったケースは去年1年間で19件に上り、6年前に比べて6倍以上になっているということです。

# HIV医療体制整備の流れ

拠点病院（抗HIV療法継続）



非専従医



地域医療機関  
（抗HIV療法継続）



施設・在宅

非拠点病院（合併症治療・地域医療支援）



非専従医

（HIV医療体制整備班）

拠点病院の再構築に応じたエイズの診療成、自立支援医療（更生医療）の運用など自治体と協議を行い、地域の医療資源に体制の構築を行う。

ブロック拠点は地域の医療・福祉従事者に診療経験の場を提供し、PLWHの対応可能なスキルを習得させる。



# 職域グループ（薬剤師・MSW・看護師）

## 「NSとの協働による要支援者・要介護者に対する療養支援のネットワーク構築」

### エイズ治療従事医師の育成と維持

#### エイズ治療専従医

ACC、ブロック拠点で指導的役割を担う

（例）ACCやブロック拠点でエイズ治療に従事しながら  
社会人大学院生として連携大学院で学位取得

#### エイズ治療非専従医

拠点・一般医療機関で抗HIV剤処方継続ができる

（例）リサーチレジデントとしてACCやブロック拠点で他  
科の診療に診療にしながらエイズ治療にも従事

### エイズ診療支援

#### エイズ診療に関わる人材育成と連携基盤整備

##### 診療チーム員育成・配置

看護師（大金）、薬剤師（矢倉）

##### 地域連携職員の育成・組織指定

看護師（大金）、MSW（三嶋）

##### オンライン地域連携・診療支援基盤整備

順天堂大学（内藤）、国立病院機構（本田）

### 専門領域支援

#### 診療支援システム構築

##### 重点診療領域ネットワーク構築

透析（日ノ下）、歯科（宇佐美）

##### 組織間、職種内ネットワーク構築

組織間（内藤,本田）、職種内（大金,矢倉）

##### 地域連携ネットワーク構築

看護師（大金）、MSW（三嶋）

令和7年度 医療体制整備班職域G

# 「NSとMSWの協働による要介護・要支援者に対する療養支援のネットワーク構築」研究計画

分担研究 三嶋一輝（福井大学）

長期療養にむけた拠点・**非拠点**病院の人材育成（“たすきがけ”教育）

## 1. 地域連携リーダー（**Ns・MSW**）の育成

全国のNsとMSWを対象とした協働シンポジウムの開催。

HIV**中核**拠点病院のNs・MSWの協働の課題を探る。

## 2. **心理職・MSW**の協働シンポジウムの開催

長期療養時代における心理職・MSWの協働の課題を探る。

## 3. 血友病薬害被害者支援ツールの開発

- ・「支援みつもりやどかりくん」協力
- ・『薬害被害者支援社会資源クイックガイド』改訂

# 連携・協働 (COLLABORATION)



C.B. Germain

コラボレーションとは

2人以上の専門職どうしが  
共通の目標達成を志向し  
分化した割合(分業)を  
協働行為として果たす(協働)プロセス  
周囲と当事者の双方に協力の認識が明確なもの

C.B. Germain(1984)「Social work in health care-ecological perspective」, The Free Press

SWの立場から

お互いを分かち合い・認め合うこと

実践においてどんな相互作用をおこなっているのか？

# 先行研究

## ★検索先★

CiNii Research  
メディカルオンライン  
医中誌Web

## ★キーワード★

「心理」&「ソーシャルワーク」&「HIV」  
「MSW・心理士」&「HIV」  
「MSW・心理士」&「連携・協働」

※がん領域におけるMSW・心理士との連携・協働の先行研究はあり。

HIV領域におけるMSW・心理士との連携・協働の先行研究はみられなかった。



# 第3回「他疾患（がん、脳卒中）発症者の支援」

## 第3回 HIV感染症患者の療養支援に関するNsとMSWの協働シンポジウム

### エイズ治療中核拠点病院と地域医療機関との連携による支援体制の構築とケアの実際

HIV 感染症患者の長期療養を支えるため、全国のエイズ治療拠点病院は地域連携を推進しています。HIV 診療チームの看護師、医療ソーシャルワーカーには、地域や関係機関との連携力が求められており、このような経緯から Ns と MSW の協働シンポジウムは企画されました。関わりから見てきたのは、**他疾患の発症を契機に HIV 感染も同時に判明した患者のケア**や地域支援体制を構築する機会の増加です。第 3 回は、患者の病状に応じた連携の取り組みや課題について、両職種から報告いただきますので、奮ってご参加ください。

日時：令和 5 年 **12 月 20 日** 水 18:00~19:10

方法：ZOOM によるオンライン

事前申し込み(先着 100名) 締切：12月11日(月) 正午

<https://forms.gle/5xw8kLhemnDBE7CaA>

あるいは QRコードから

\* 個人情報は運営管理の目的以外に使用しません。

対象：HIV 診療に携わる  
看護職と医療ソーシャルワーカー



#### プログラム

進行 三嶋 一輝 医療ソーシャルワーカー (福井大学医学部附属病院)  
石井 智美 HIV コーディネーターナース (石川県立中央病院)

開会挨拶 「HIV 感染症の医療体制の整備に関する研究」班 研究代表者  
潟永 博之 エイズ治療・研究開発センター長  
(国立国際医療研究センター病院)

#### シンポジウム

① AIDS 発症に伴う複数の診療科との連携における HIV 担当看護師の役割

宮城 京子 HIV コーディネーターナース (現球科大学病院)

② 脳卒中で搬送された HIV 陽性者の地域支援体制構築における MSW の役割

木梨 貴博 医療社会事業専門員 (福山医療センター)

#### 総合討論

#### 情報提供

薬害 HIV 感染者の「PMDA 個人データの提供による個別支援」[J4H] の仕組みについて

高橋 昌也 医療社会事業専門員  
(国立国際医療研究センター病院エイズ治療・研究開発センター)

#### 開会挨拶

大金 美和 患者支援調整員  
(国立国際医療研究センター病院エイズ治療・研究開発センター)

厚生労働行政推進調査事業費補助金エイズ対策政策研究事業  
HIV 感染症の医療体制整備に関する研究  
研究分担者：三嶋一輝「Ns との協働による要介護・要支援者に対する療養支援のネットワーク構築」

研究分担者：大金美和「ブロック内中核拠点病院間における相互連携による HIV 診療環境の相互評価と MSW と協働による要介護・要支援者に対する療養支援のネットワーク構築」

公益社団法人 日本医療ソーシャルワーカー協会

#### 問い合わせ先

福井大学医学部附属病院 地域医療連携部 三嶋 一輝  
TEL 0776-61-8645 (平日 9:00 - 17:00) ※当日 TEL 080-2966-7362



(福山医療センター木梨MSW)



(190名参加.2023.12)  
※253名申込み



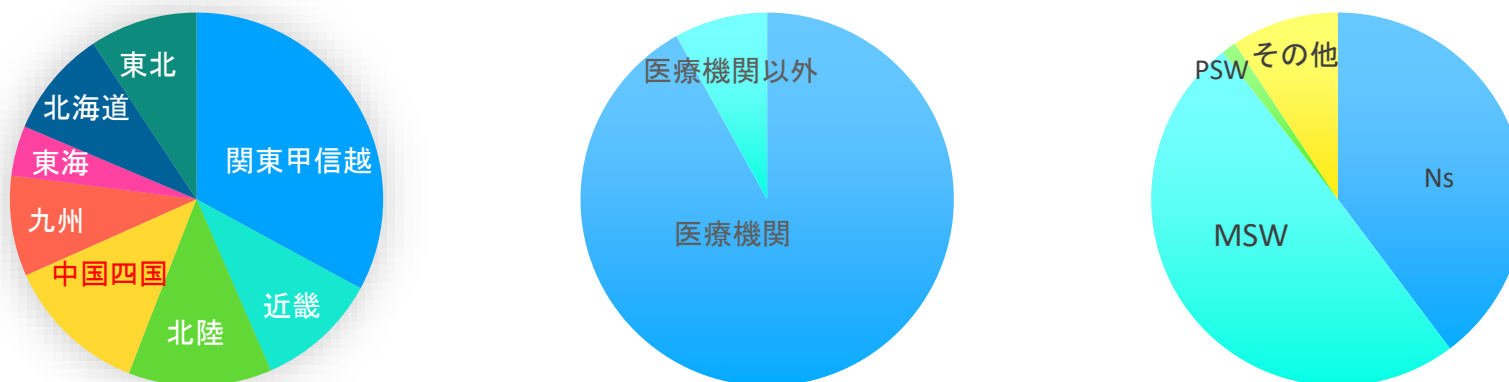
第3回HIV感染症患者の療養支援に関するHIV感染症患者  
を支えるNsとMSWの協働シンポジウム

2023年12月20日@オンライン

事後アンケート結果

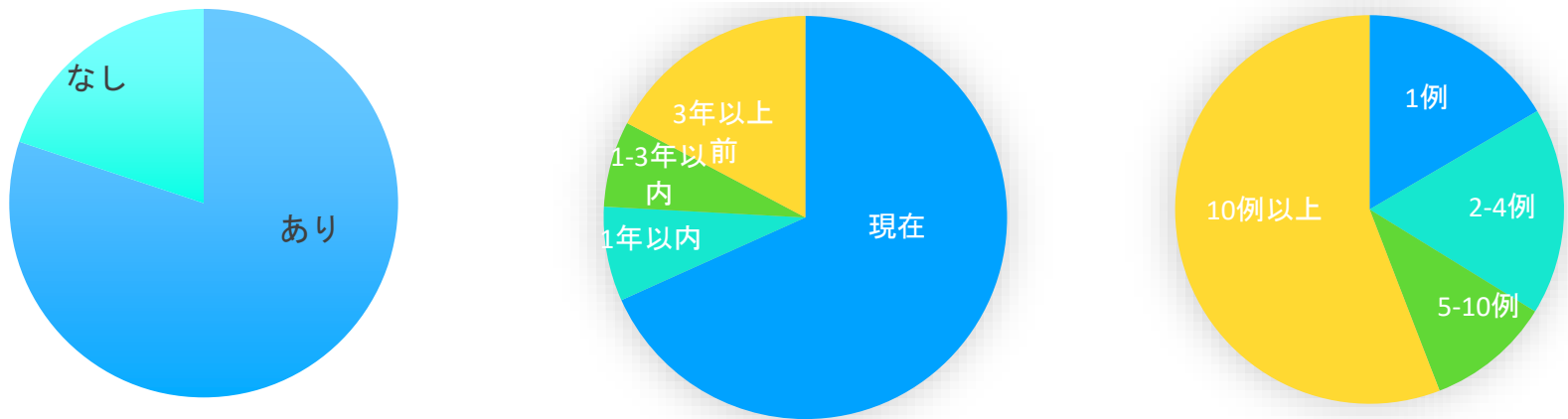
回答者：161名/参加者190名（回答率：84.7%）

# 図1 参加者の勤務地・所属・職種



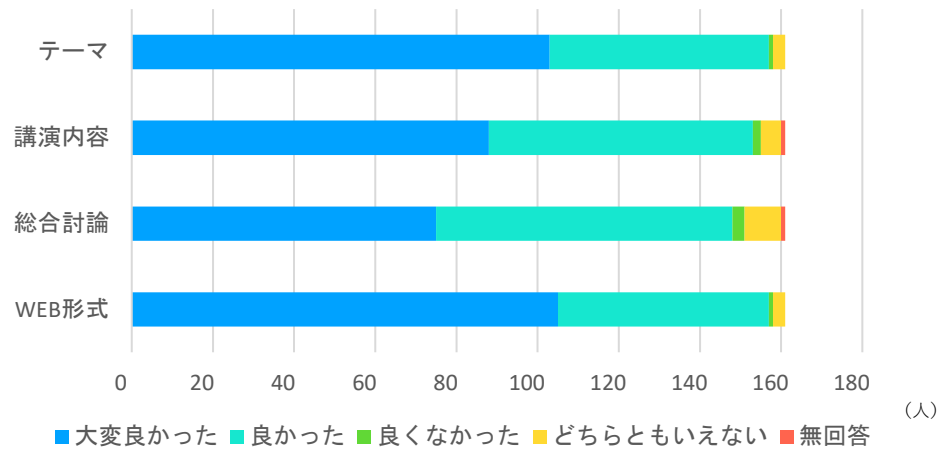
勤務地は、多い順に「関東・甲信越」、「中国四国」、「北陸」、「近畿」だった。関東甲信越および東海を除くと第2回シンポジウム同様に、全国各地から均等な参加割合となった。所属は医療機関が9割であり、職種は看護師とMSWほぼ半数ずつを占めた。

# 図2 HIV感染症患者の支援経験・支援時期・支援症例数



HIV感染症患者の支援経験は「あり」が8割以上だった。支援の時期は、「現在対応中」が6割以上で最も多かった。支援経験「あり」と答えた者の支援数は「10例以上」が最も多かった。

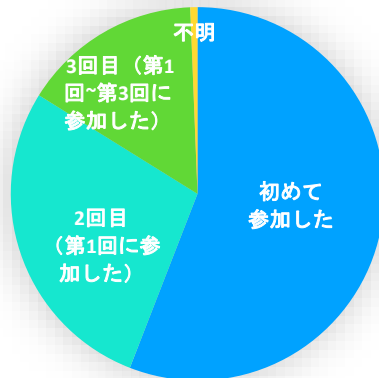
## 図3 シンポジウムの評価



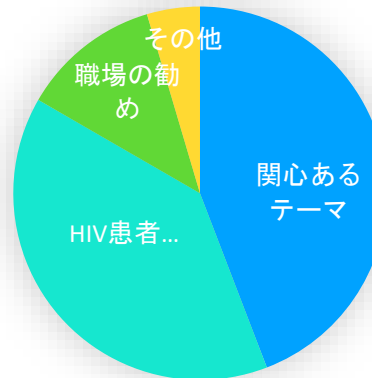
時間の長さ

テーマ、講義内容、総合討論、WEB形式のすべての項目で「大変良かった」または「良かった」との評価だった。時間の長さ及び時間帯は概ね適切だった。

## 参加回数



## 参加動機



## 今後の参加



参加回数は、「はじめて参加した」が5割以上だった。参加動機は「関心あるテーマだったから」が最も多かった。今後の参加希望は「参加したい」100%だった。全般として、本テーマへの関心が高く、満足度も高い結果となった。



# 今後の企画希望

## ● 課題や状況毎の支援事例（地域例、介入時期、薬害、外国人など）の共有と検討

- ・緩和ケア病棟の受け入れ
- ・（いわゆる）おひとり様患者の支援
- ・苦労した事例や困難（失敗）事例
- ・意思決定（ACP）

## ● 地域連携の実際、受け入れた施設や受け入れを検討してくれる施設との協働

- ・中核拠点病院の役割と具体的な活動
- ・受け入れ施設と受け入れを躊躇する施設の会議・訪問看護や療養施設での実際の話
- ・療養型病院や施設のMSW、Nsに参加してもらえる企画
- ・他病院・介護事業所への勉強会・出張研修の詳細
- ・訪問看護ステーションによるHIV患者支援の実際
- ・地域のクリニックや訪看の話
- ・拠点病院以外でHIV患者を新規に受け入れた医療機関からの事例発表

## ● 院内・院外連携

- ・院内における他科との連携、MSWと心理職との連携、教育機関との連携
- ・病院と保健所の連携

## ● 正しい制度理解と社会資源の活用について

- ・更生医療など社会福祉制度の適用における地域格差

# 第4回「受診・治療継続困難な患者の支援」

第4回 HIV感染症患者の療養支援に関するNsとMSWの協働シンポジウム

## NsとMSWの協働による 受診・治療継続が困難な患者への支援とケアの取り組み

HIV 感染症患者の長期療養を支えるため、全国のエイズ治療拠点病院は地域連携を推進しています。エイズ予防指針にも HIV 診療チームの看護師、医療ソーシャルワーカーには、地域や関係機関との連携力が求められており、このような経緯からNsとMSWの協働シンポジウムは企画されました。

協働の実践から見てきたのは、継続的な治療や内服継続が必要にもかかわらず、受診・治療継続が困難となった患者への支援の困難さです。第4回は、受診・治療継続が困難となった事例をもとに患者の病状や生活に応じた地域との連携の取り組みや課題について、両職種から報告いただきますので、奮ってご参加ください。

日時：令和6年11月13日 水 18:00~19:10

方法：ZOOMによるオンライン  
事前申し込み(先着200名)

<https://forms.gle/Txvp3ZWEZvpQ31DU7>

締切：11月4日(月) 正午 あるいは QRコードから ▶

\* 個人情報保護法に基づき、運営管理の目的以外に使用しません。



対象：HIV 診療に携わる  
看護職と医療ソーシャルワーカー

### プログラム

進行	三嶋 一輝	医療ソーシャルワーカー (福井大学医学部附属病院)
	木下 佑子	HIVコーディネーターナース (福井大学医学部附属病院)
開会挨拶	湯永 博之	[HIV感染症の医療体制の整備に関する研究] 班 研究代表者 ACC センター長 (国立国際医療研究センター エイズ治療・研究開発センター)
シンポジウム 事例提供者	高木 雅敏	HIVコーディネーターナース (熊本大学病院)
	吉田 謙未	医療ソーシャルワーカー (熊本大学病院)
総合討論		
情報提供		
先天性血液凝固因子障害等治療研究事業について	高橋 昌也	医療社会事業専門員 (国立国際医療研究センター エイズ治療・研究開発センター)
閉会挨拶	大金 美和	患者支援調整員 (国立国際医療研究センター エイズ治療・研究開発センター)

厚生労働行政推進調査事業費補助金エイズ対策政策研究事業  
HIV感染症の医療体制整備に関する研究

研究分担者：三嶋一輝「Nsとの協働による要介護・要支援者に対する療養支援のネットワーク構築」

研究分担者：大金美和「ブロック内中核拠点病院間における相互交流によるHIV診療環境の相互評価とMSWと協働による要介護・要支援者に対する療養支援のネットワーク構築」

公益社団法人 日本医療ソーシャルワーカー協会

### 問い合わせ先

福井大学医学部附属病院 地域医療連携部 三嶋 一輝  
TEL 0776-61-8645 (平日 9:00 - 17:00) ※当日 TEL 080-2966-7362

(223名参加.2024.11.13)  
※277名申込み

第1回 HIV感染症患者の療養支援に関する  
心理職とMSWの協働シンポジウム

## エイズ治療中核拠点病院における 先駆的連携活動の実際

HIV 感染症患者の長期療養を支えるため、全国のエイズ治療拠点病院は地域連携を推進しています。エイズ予防指針はチーム医療の重要性を強調しており、HIV 診療チームの心理職、医療ソーシャルワーカーは、両職種の連携力を強化し、心理・社会的な支援の包括的な支援体制を構築する必要があります。

この度、エイズ治療拠点病院の心理職と医療ソーシャルワーカーの連携・協働について、シンポジウムを企画しましたので、ぜひご参加ください。

対象：HIV 診療に携わる  
心理職と医療ソーシャルワーカー

### プログラム

進行	三嶋 一輝	医療ソーシャルワーカー (福井大学医学部附属病院)
	高村 佳幸	心理療法士 (順天堂医院)
開会挨拶	[HIV感染症の医療体制の整備に関する研究] 班 湯永 博之	研究代表者 ACC センター長 (国立国際医療研究センター エイズ治療・研究開発センター)
シンポジウム		
事例を用いた心理職とMSWの連携の実際 (仮)	北上 早紀	心理療法士 (徳島大学病院)
	富永 誠記	医療ソーシャルワーカー (徳島大学病院)
総合討論		
閉会挨拶	木村 聡太	心理療法士 (国立国際医療研究センター エイズ治療・研究開発センター)

厚生労働行政推進調査事業費補助金エイズ対策政策研究事業  
HIV感染症の医療体制整備に関する研究

研究分担者：三嶋一輝「Nsとの協働による要介護・要支援者に対する療養支援のネットワーク構築」

研究分担者：大金美和「ブロック内中核拠点病院間における相互交流によるHIV診療環境の相互評価とMSWと協働による要介護・要支援者に対する療養支援のネットワーク構築」

公益社団法人 日本医療ソーシャルワーカー協会

日時  
令和6年  
12月11日 水 18:00~19:10

方法  
ZOOMによるオンライン  
事前申し込み(先着100名)  
<https://forms.gle/Jcs7T2nhz3jb4Yqp8>  
あるいは QRコードから



締切：12月2日(月) 正午

\* 個人情報保護法に基づき、運営管理の目的以外に使用しません。

### 問い合わせ先

福井大学医学部附属病院 地域医療連携部 三嶋 一輝  
TEL 0776-61-8645 (平日 9:00 - 17:00) ※当日 TEL 080-2966-7362

(168名参加.2024.12.11)  
※216名申込み



# 第1回「心理職とMSWの連携・協働コラボ」

zoom Workplace

サインイン レコーディングしています... 表示

M三嶋一輝 (福井大学医学部附属病院) が発言中...

 O栗田智未(福井大学附属...)	 M吉田篤史 (三重県立...)	 O瀧永博之(国立国際医療...)	 N小手川・加藤・網田 大...	 M大塚めぐみ(鳥取大学医...
 堀人法子 (鳥取大学医...	 M岡本 学 (大阪医療セ...	 M塩路直子(小崎綾子 ...)	 M金野志保 (横浜市立市...	 M渡辺直子(東大医科研)
 独協医大病院 早川	 M角田ゆかり(松江赤十字...	 N内田真季 (伊勢赤十字...	 M隈村綾子 (京大病院)	 M千葉和義 (福島労災病...
 O佐藤 (石川県健康推進...	 M大里文誉 (九州医療セ...	 N百田亜紀子 (福井大学...	 M松原美鈴(富山県立中...	 M上條奈奈(諏訪赤十字...
 N石田美紀子 (福井県立...	 M川端宏輝 南岡山医療...	 M harada(熊本大学病院)	 M西山明宏 (相模原赤十...	 M石郷岡美穂 (琉球大学...

2/8

オーディオ 184 参加者 チャット リアクション 共有 ホストツール アプリ 詳細 退出

# 「デジタル技術によるネットワーク化」

## 社会学部 白取耕一郎 講師が代表を務めるチームが「都知事杯オープンデータ・ハッカソン」で都知事杯（最優秀賞）を受賞

2023.10.25

お知らせ

LINEで送る

シェアする

× ポスト

本学社会学部コミュニティデザイン学科 白取 耕一郎 講師が代表を務めるチーム（「proj-inclusive×一般社団法人防窮研究所」チーム）が、東京都主催の「都知事杯オープンデータ・ハッカソン」において、都知事杯（最優秀賞）を受賞しました。

都知事杯オープンデータ・ハッカソンは、都のオープンデータを活用して行政課題の解決に向けたデジタルサービスの提案を競う大会であり、東京都民のQOL（生活の質）向上につながる新たなサービスを創出することを目的として開催されています。

白取講師のチームは、アプリ「支援みつもりヤドカリくん」の制作というプロジェクトに取り組みました。このアプリは、社会的支援制度に関するChatBotと支援制度により受けられる可能性のある助成金などの金額を試算するシミュレーターを実装し、当事者や支援者が必要なときに必要な支援にアクセスすることができるものです。

今回制作したアプリについては、東京都の協力のもと、2023年度末のサービス実装に向けて開発を進めていく予定です。



表彰式後のチーム集合写真（前列左から2人目：白取講師）

<https://shien-yadokari.netlify.app/>(支援みつもりヤドカリくん)

# 「支援みつもりヤドカリくん」とは？

デバイスから受けられる可能性がある制度を簡単シュミレーション

- ・「かんたん計算」と「くらしく計算」の2パターンを用意
- ・簡単計算では年齢、収入、家族構成だけでOK

必要な支援へのアクセスを提示

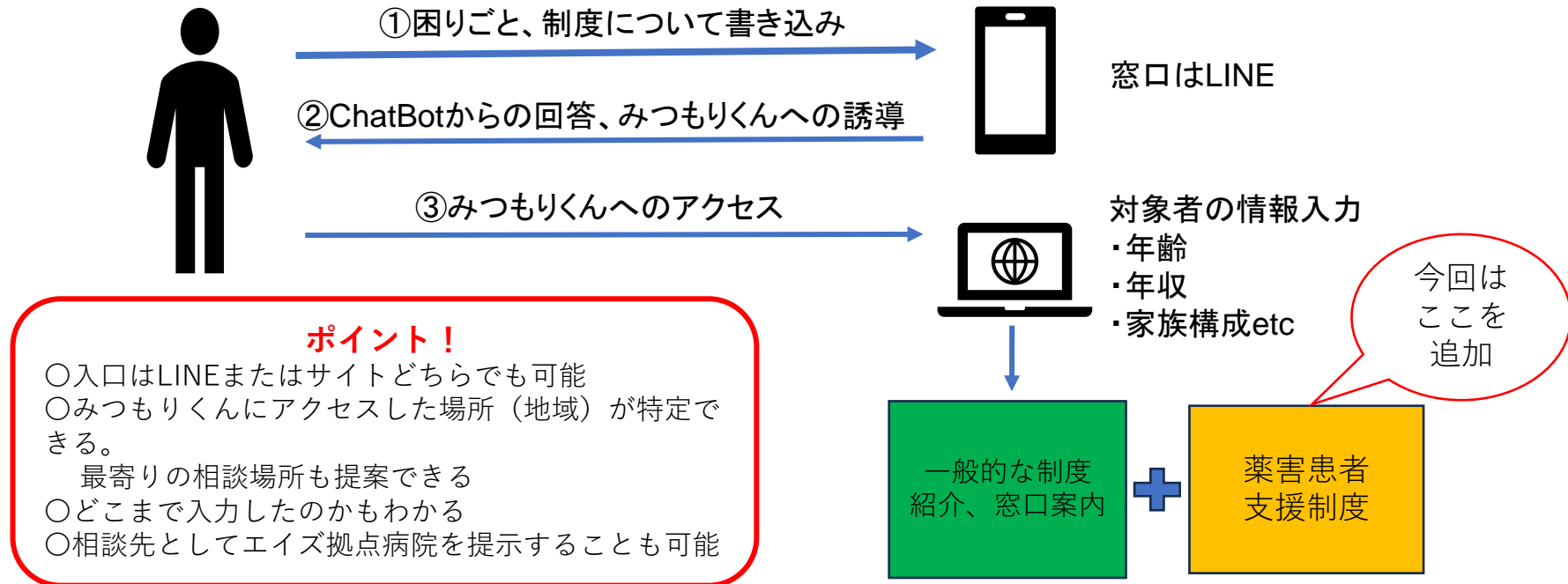
- ・アクセスされた場所（地域）を特定でき、最寄りの相談場の提案ができる
- ・自ら相談に行くきっかけになる

**みつもりくん = 制度への橋渡しになる技術**





# Chatbotを使用した誘導について



# モジュールの追加

相談内容のフローを構築できればカスタマイズ（モジュールを追加）することが可能

薬害HIV患者が利用できる制度（手当）として下記の項目が想定される

## 【手当】

- 健康管理支援事業（AIDS発症） 150,000円/月
- 調査研究事業（AIDS未発症）
- CD4 $\leq$ 200 53,000円/月      CD4 $>$ 200 37,000円/月
- 先天性傷病C型肝炎調査研究協力謝金 51,500円/月
- 国 特別障害者手当 27,350円/月
- 市町村 心身障害者福祉手当

# 今後の展望

## 薬害

- 研究として、まずは薬害患者支援制度からモジュールを開発
- 2024年度エイズ学会を目標にシステム開発、実用調査を行う

## SW

- ソーシャルワーカー・コメディカルが窓口業務で使用できるようになる
- SWの制度の見落としし予防や患者と共に閲覧することで、円滑な支援につながる

## 全国展開

- 医療機関のみならず、各福祉機関、行政でも活用可能なものにアレンジ
- 例えば、入院時にすべての患者にチェックしてもらえそうな仕組みにする

# 早期治療推進検討委員会@日本エイズ学会

- **フェーズ3：公表と政策提言（2025年9月 – 2026年12月）**
- 提言書の公表
- 日本語版・英語版の公開
- プレスリリースやメディア対応を含む対外発信
- アクションプランに基づき、要望書提出・意見交換の開始
- 厚生労働省や関係省庁への要望書提出・意見交換
- 議員へのレクチャー、各種説明会の実施
- 具体的政策提言の提示
- **身体障害者手帳制度の見直しや早期治療の推進策など、  
具体的提案を提示**
- 必要に応じて追加調査や根拠資料を用意
- 国際機関を含む関連団体との情報共有を継続

# 【患者の高齢化の備え】

- 舞台は、拠点病院から**非**拠点病院へ。  
『拠点病院診療案内』（<https://hiv-hospital.jp/>）  
※「**クリニック**」が追加  
**HIV以外の**病気で拠点病院以外に搬送される時代
- 高齢化による身寄りなしの問題等は、「**社会課題**」として捉える。
- HIV・エイズは**特別な**病気。目指すのは「**地域包括ケア**」？